

## 平成30年度 東京都立足立西高等学校経営報告

今年度は前年度までの課題解決を軸に「東部学校経営支援センター特別指定校（以下、センター指定校）」の冠を掲げ、新たな目標を設定して学校経営を進めた。センター指定校としての主な目標は、生徒の学力定着と向上、希望進路の実現に向けたキャリア教育の充実、家庭学習時間の増加である。

授業の改善、学習課題の工夫、進路指導の改善などの取組により定期考査平均点の上昇、家庭学習時間の増加等一定の成果はあったが、根本的な学習内容の定着、学力の大幅な向上までは達成できなかった。学習指導における次年度の最大の課題である。

募集対策については、説明内容を充実させるとともにPR動画も制作し、東京動画にアップロードした。YouTubeでも見られるようになってきている。そのためかどうかは不明だが、応募倍率は過去5年間で最高を記録した。一方、次年度、その翌年度と足立区内の中学生は100人単位で減少する見込みなので、さらなる対策が求められる。

新たな元号となる2019年度は、新学習指導要領を踏まえた教育課程を具体的に検討するとともに最終年度となるセンター指定校の取組目標を達成しなければならない。引き続き安全安心な学校づくりを標榜し、生徒の学力向上及び希望進路の実現のため、総力を挙げて取り組んでいく。

### 今年度の取組目標と成果及び課題

取組目標と方策	成果と課題
<p><b>【学習指導】</b></p> <p>(1) 意欲的、主体的に取り組める授業の確立</p> <p>ア 必要な知識の伝授と理解を前提にアクティブラーニングの手法を取り入れ、生徒が主体的に考え、表現する授業を展開する。</p> <p>イ チャイム始業、居眠り防止の徹底を図る。</p> <p>ウ 授業、体育祭、マラソン大会等を活用し、基礎体力の向上を図る。</p> <p>エ ICT機器や視聴覚教材を効果的に活用し学習意欲を喚起すると共に理解を支援する。</p> <p>オ 授業ミニマムを遵守し、質の高い授業準備を定着させて学習環境をさらに向上させ、個に応じた指導推進と基礎学力定着</p> <p>カ 習熟度別の目標を明確化し、生徒個々に応じて多面的に学力アップを支援する。</p> <p>キ 本校独自の特進システムを活用し、生徒の希望進路実現を支援する。</p> <p>ク 学力スタンダードを活用した目標を設定し、授業内容の共通化を図る。</p> <p>ケ 各教科の授業においてオリンピック・パラリンピックに関連した内容を取り入れる。</p> <p>コ 読書指導に力を入れ、読書による知識と教養の向上を図る。</p> <p>(2) 学習内容の定着、学習意欲の向上、学習習慣の定着</p> <p>ア 授業方法の改善等により、学習内容の定着を図る。</p> <p>イ 小テスト、週末課題等の工夫により家庭学</p>	<p><b>【学習指導】</b></p> <p>《成果》</p> <p>アクティブラーニングの手法を取り入れた授業については、各教科で意識的に研究され、実践されている。ICT機器や視聴覚教材の活用に取り組む教員も増えてきた。</p> <p>教員の授業改善は、生徒の実態を把握するとともに、生徒による授業評価アンケートを専門の業者に依頼し、細かく分析した個票も参考に改善の取組を進めた。</p> <p>特進システムは特進クラスのように各教科40人規模にはなっていないものの、積極的に希望する生徒だけが受講することにより内容の充実が図られている。</p> <p>読書指導は図書室購入図書を中心に生徒及び教員が本を推薦したり、司書がポップに力を入れたりするなどして利用者の拡大につなげた。</p> <p>《課題》</p> <p>授業改善には教科間、教員間で温度差があり、個々の意欲に委ねる面が否めない。引き続き授業評価アンケート等、客観的な資料等も参考に改善が必要である。</p> <p>生徒の学力向上、学んだ内容の定着は解決が困難な課題である。卒業後の進路に関わらず学びの重要性を説くなど、生徒の意識改革が必要な問題として、授業や教材の抜本的な見直しも視野に入れた生徒指導に取り組んでいく。</p>

<p>習を定着させる。</p> <p>ウ 課題発見型の学習体系について検討し、実践する。</p> <p><b>【生徒指導】</b></p> <p>(1) 組織的な品格のある生徒指導の推進</p> <p>ア 遅刻激減を目指し、授業時間管理の一層の徹底を図る。</p> <p>イ 身だしなみ指導、遅刻撲滅指導を中核に全校体制でマナーアップ指導に取り組む。</p> <p>ウ 生徒のマナーアップ・ウィルアップのための取組みを分掌・学年および個々の教員、生徒個々が実践する。</p> <p>(2) 安全指導の継続、繰り返し実施による徹底</p> <p>ア 情報リテラシーの向上のための指導を外部の教育力活用も含めて繰り返し徹底する。</p> <p>イ 自転車利用に係る交通法規遵守の指導を繰り返し徹底する。</p> <p>ウ 登下校時および校内安全確保のための多面的な指導を実施し徹底する。</p> <p>(3) 生徒支援体制の組織化</p> <p>ア SC (スクールカウンセラー) を中核に生徒支援体制を組織し、生徒の多様な課題に適切に対応する。</p> <p>イ SCや外部の教育力を活用し教員の生徒支援のスキルアップを進める。</p> <p><b>【キャリア教育】</b></p> <p>(1) キャリア教育の組織化・計画化</p> <p>ア 総合的なキャリア教育の組織的な実施体制確立に取り組む。</p> <p>イ 「人間と社会」、総合的な学習の時間やHRの活用に組織的に取り組む。</p> <p>ウ インターンシップは1学年全員を対象として実施する。</p> <p>エ 模擬試験、検定試験の受験について計画的に指導していく。</p> <p>オ 個人カルテによる目標管理システムを導入し生徒の主体的な高校生活を支援する。</p> <p>(2) 進路指導の質的向上</p> <p>ア きめ細かく生徒・保護者への面談等を実施し、個々の生徒への理解と支援に努める。</p> <p>イ 生徒個々の意識啓発と進路準備早期化への方策実施</p> <p>ウ 獨協大学との高大連携や公的機関との連携等外部の教育力の活用を推進する。</p> <p>エ 大学進学希望者には大学入試センター試験や一般受験での進学を目標とさせる。</p> <p>オ 自分の希望学科と一致する場合はAO及び公募推薦等も推奨し、支援する。</p>	<p><b>【生徒指導】</b></p> <p>《成果》</p> <p>生徒部が学年を主導する体制が一層整ってきた。日常的な声かけ、生活指導に係る啓発指導など、きめ細かな指導が功を奏し、いわゆる特別指導は激減した。</p> <p>悩みを抱える生徒、特別な支援を要する生徒への支援体制は、学年と養護教諭、スクールカウンセラーとの連携を密にし、ケース会議の回数を大幅に増やすなどした結果、生徒、保護者の信頼度が向上した。</p> <p>《課題》</p> <p>遅刻指導は生徒部と学年が連携して、全校で取り組んでいるが、激減にはつながらず、引き続き次年度の課題となる。遅刻を重ねた生徒に対する罰則的な指導方法に成果は見られるものの、罰則を科しても守らない生徒は本校が行ってきた指導の限界の象徴ともいえ、何らかの対策が急務である。</p> <p>自転車事故が増加した実情を踏まえ、交通安全対策を強化する必要がある。</p> <p><b>【キャリア教育】</b></p> <p>《成果》</p> <p>3年間を通じたキャリア教育を可視化し、生徒や保護者にとって分かりやすいものとなった。インターンシップは極力生徒の将来の希望に合わせた職種を提供し、満足度をさらに高めた。</p> <p>個人カルテは完成が遅れ、活用には至らなかったが次年度始業と同時に適用する準備は整えた。</p> <p>進路指導については、面談週間の設定、生徒の状況に応じた二者又は三者面談を実施し、希望進路の早期決定に結びつけた。その他、進学指導に関する研修会の実施、センター指定校予算を使って進路相談室における資料検索用PCの更新等、教員の資質向上と環境整備を推し進めた。</p> <p>《課題》</p> <p>インターンシップの実施は相変わらず担当教員の大きな負担になっており、作業分担及び効率化の課題解決が図れていない。</p> <p>大学希望から専門学校等への進路希望変更が少なからずある。積極的な希望なのか、諦念からなのか、後者の場合は指導上要注意である。</p> <p>都内の大学の定員厳格化の波は本校にも押し寄せ、合格実績が伸び悩んだ。進学対策はより強化</p>
--	--

<p>カ 安易に専門学校を選択させないという前提で指導を進めていく。</p> <p>キ 就職希望者には、希望に沿い継続安定性が見込まれる就職内定を目指させる。</p> <p>ク 早期からの進路準備のための多面的な講習、指導を実施する。</p> <p><b>【特別活動】</b></p> <p>(1) 部活動のさらなる魅力化と多様化</p> <p>ア 部活動の加入率及び定着率の向上を目指した取組みを実施する。</p> <p>イ 運動系部活動では望ましい生徒モデルの育成を主眼とする。</p> <p>ウ 文化系部活動では地域に発信し貢献できる生徒の育成を目指す。</p> <p>エ 部活動・生徒会による地域交流・地域貢献活動を質・量ともにさらに充実させる。</p> <p>(2) 学校行事</p> <p>ア 体育祭、文化祭を中心に生徒主体の行事企画運営を推進する。</p> <p>イ 生徒の安全を第一とした行事運営を原則として検証と改善を図る。</p> <p>ウ オリンピック・パラリンピック教育の一環として講演会等を実施する。</p> <p><b>【人材育成】</b></p> <p>(1) OJT推進</p> <p>ア 個々の目標を明確化し、意図的・計画的にOJTを実施する。</p> <p>イ 教員間の相互授業参観を積極的に奨励し、自己研鑽に努める。</p> <p>(2) 研修の奨励</p> <p>ア 校内研修の機会を増やし、外部機関による研修への参加等の自己啓発活動も奨励する。</p> <p><b>【募集対策活動】</b></p> <p>(1) 利用者本位の視点での募集対策活動の改善</p> <p>ア ホームページを活用した積極的な情報発信の推進と更新頻度のさらなる向上</p> <p>イ 学校見学会、説明会の一層の充実</p> <p>ウ 組織的戦略的にマーケティングリサーチを継続し活用する。</p>	<p>する必要がある。</p> <p><b>【特別活動】</b></p> <p>《成果》</p> <p>部活動の加入率は前年度を下回ったが、1、2学年の定着率は上昇傾向で「体験入部義務付け」の成果となった。</p> <p>学校行事、ボランティア活動等において、部活動単位での協力が得られ、各部活動の積極的な運営支援の原動力となった。</p> <p>日常的な安全対策が功を奏し、部活動における重大事故はいわゆるインシデントも含め、一件も発生しなかった。</p> <p>《課題》</p> <p>引き続き部活動加入率の向上及び重大事故発生0を目指し、取り組んでいく。また、ボランティア活動の充実をうたいながら、大幅には増えていないので、機会を増やし、参加を働きかけるなど取組を進める。</p> <p><b>【人材育成】</b></p> <p>《成果》</p> <p>OJTによるスキル向上、相互授業参観ならびに研究授業の実施により、若手を中心に研修の成果が出ており、生徒による授業評価において高い数値を示している。また、特別活動においても若手の指導力が伸びており、組織の戦力アップにつながっている。</p> <p>また、将来のキャリアプランを検討させる研修も実施し、全教員を啓発した。</p> <p>《課題》</p> <p>日常的な声かけで育成していると考えているベテラン教員が少なくない。組織的な育成計画の構築が必要である。</p> <p><b>【募集対策活動】</b></p> <p>《成果》</p> <p>新入生アンケートを実施し、本校を選んだ理由、志望校を決めた時期などをデータ化して、説明会等の資料とした。また、ホームページの改善、ツイッターの活用等、情報伝達に努めた結果、入選倍率は過去5年間で最高を記録した。</p> <p>《課題》</p> <p>ホームページの充実をさらに図るとともにツイッターをより積極的に活用する。本校に興味を持</p>
---	---

<p><b>【学校経営・組織体制】</b></p> <p>(1) 校内情報共有の推進</p> <p>ア T A I M S等を活用した情報発信、情報共有の推進を図る。</p> <p>イ 組織連携の強化</p> <p>ウ 分掌、学年、教科、経営企画室の相互連携を推進し組織体制の強化を進める。</p> <p>(2) 危機管理の徹底</p> <p>ア 個人情報管理、サービス、生徒事故等の事故未然防止に総力を挙げて取り組む。</p> <p>イ 外部者の訪問管理を徹底し、安全な学習環境を確保する。</p> <p>(3) 経営企画室の一層の経営参画</p> <p>ア 学校経営計画達成に向け、課題指摘及び改善策の提言に努める。</p> <p>イ 費用対効果の観点を持って、予算の有効活用と適切な時期の執行を徹底する。</p> <p>ウ 経営計画及び予算編成指針に基づいた予算計画を策定する。</p> <p>エ 安全で快適な学校環境を維持するための施設点検、施設管理を徹底する。</p> <p>オ 分掌、学年、教科との連携強化に努め、適切な学校運営をサポートする。</p> <p>(4) ライフワーク・バランスの推進</p> <p>ア 業務時間の縮減等、ライフワーク・バランス推進のためのアイデアを募るとともに、可能なものについて実現を図る。</p> <p>イ 時間外勤務の多い教員の業務内容の分析及び改善を図る。</p> <p>(5) 入学者選抜業務の適正な実施</p> <p>ア 早期から綿密な準備を進め、教職員の総力を結集し円滑かつ正確に進行する。</p>	<p>った方の多くが最初に見るであろうHPはまだまだ改善の余地がある。同時に新入生を対象とした組織的戦略的なマーケティングリサーチは一層の活用を要する。</p> <p><b>【学校経営・組織体制】</b></p> <p>《成果》</p> <p>T A I M Sの活用と組織連携の強化による成果は会議時間の短縮である。企画調整会議50分未満、職員会議60分未満を達成している。</p> <p>予算執行、施設維持等において経営企画室職員と教員との日常的なかかわり、会議での議論が円滑な学校運営に貢献した。</p> <p>危機管理体制の日常的な取組により、生徒事故、サービス事故、入選事故のいずれにおいても重大事故の発生を防いでいる。</p> <p>《課題》</p> <p>教員により、在校時間の差が激しく、アンバランスな状況が改善されていない。学校の教育活動全体のクオリティを下げることなく、年休取得促進、在校時間の短縮を課題として改善、解決に取り組んでいく。</p>
---	---

重点項目の数値目標

目 標	平成30年度	平成29年度
1 入学者選抜一次応募倍率 1.3倍	1.37倍	1.28倍
2 私立大学（日東駒専）現役合格者数 10名	2名	10名
3 進路決定率 90%	84.8%	83.8%
4 成績不振による転退学者 0名	0名	2名
5 生徒事故件数 0件	5件	2件
6 部活動加入率 70%	54.3%	58.8%
7 ホームページ更新回数 150回	111回	150回
8 年間遅刻延べ回数 8000回	9599回	8581回
9 授業満足度肯定回答 80%	69%	74%
10 進路指導満足度肯定回答 80%	79%	73%
11 特別指導件数 10件	5件	13件
12 自転車事故 0件	4件	0件
13 四年制大学進学率 35%	32.3%	31.4%
14 学校説明会等参加者数 1200組	1040組	1169組
15 ボランティア活動への積極的な参加 20回	19回	14回
16 講習参加生徒延べ数 800名	551名	790名